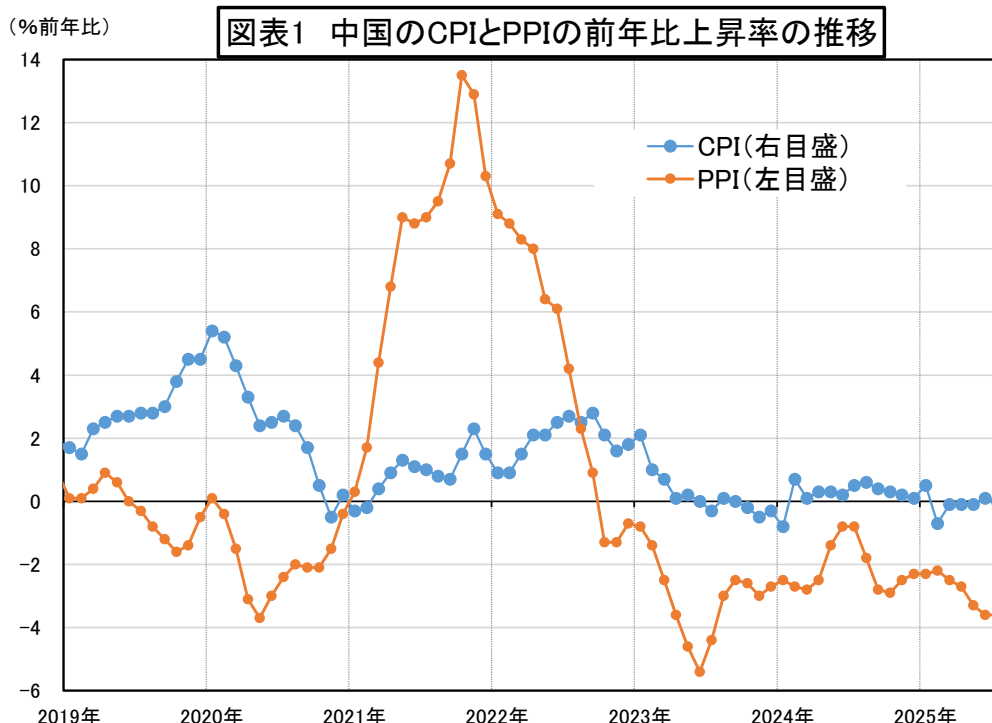


(中国)物価は下落圧力が和らいだも依然弱い

中国では、内需の弱さや一部の業種における過度な値下げ競争などを背景に低インフレ状態が続いているが、足元の物価は下落圧力がやや和らいだものの、依然として弱いとみられる。

中国国家统计局が8月9日に発表した7月の消費者物価指数(CPI)は前年比0%と6月(同0.1%)から上昇率がやや鈍化した(図表1)。詳細を確認すると、食料品価格は▲1.6%と6月(同▲0.3%)からマイナス幅が拡大し、寄与度は▲0.45ポイントであった。



(資料)中国国家统计局、Windより作成、直近は25年7月。

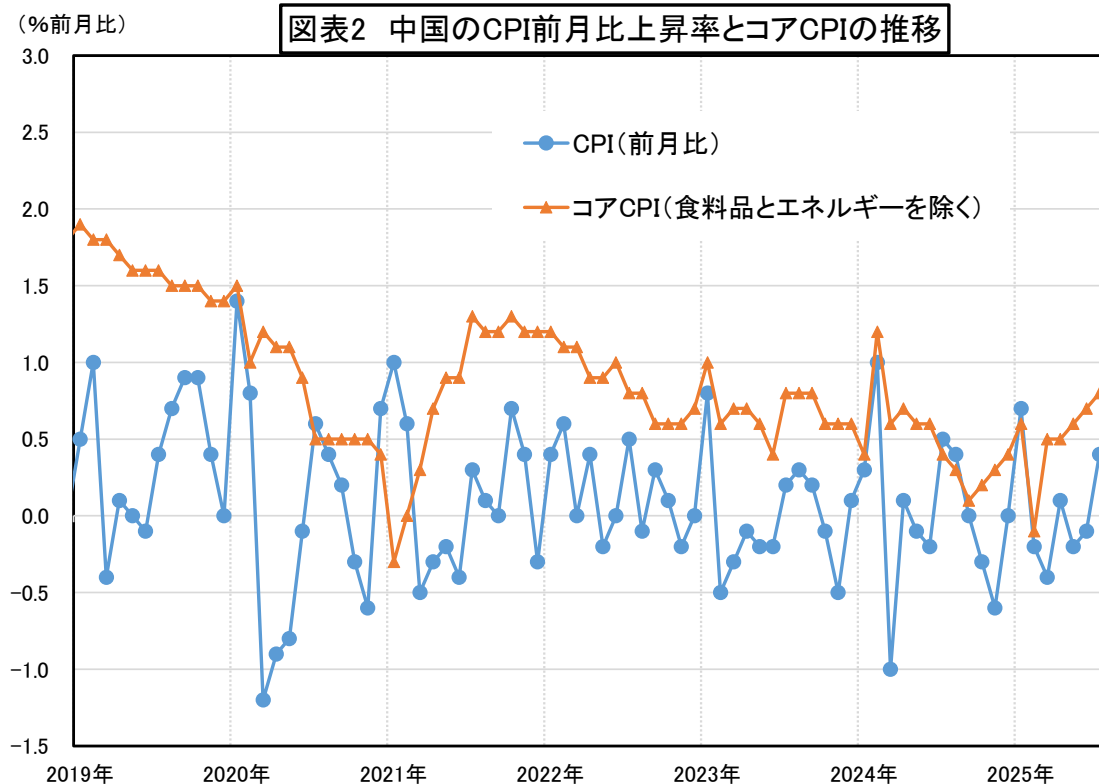
うち、豚肉価格は同▲9.5%と6月(同▲8.5%)から鈍化し、寄与度は▲0.13ポイントであった。また、生鮮野菜と鶏卵の価格もそれぞれ同▲7.6%、▲11.2%と6月(同▲0.4%、▲7.7%)から大きく鈍化し、寄与度はそれぞれ▲0.16ポイント、▲0.07ポイントとなった。このように、7月のCPI前年比上昇率が横ばいとなった要因として、食料品、とくに野菜および豚肉の下落によるところが大きかったことがある。こうしたなか、中国農業農村部(日本の農林水産省に相当)は、豚肉価格の下落に歯止めを掛けるために、豚飼育に関する生産調整を実施する一環として、母豚100万頭を減らすと発表した。

他方、金などのアクセサリが大きく値上がりしたほか、過度な値下げ競争を抑制するなか、自動車販売価格の下落幅も縮小に転じたこともあり、CPI前月比上昇率は0.4%と6月▲0.1%から加速した(図表2)。また、変動幅の大きい食料品・エネルギーを除いたコアCPI前年比上昇率も0.8%と6月(0.7%)から小幅ながら加速し、24年3月以来の高水準となった(図表2)。これらからは、政府が実施している財・サービス消費促進策と設備更新策を受けて、国内需要が一定程度改

経済金融フラッシュ

善していると思われる。

しかし、7月の生産者物価指数(PPI)は前年比▲3.6%と6月から変わらず、2年10か月連続のマイナスとなった(図表1)。国内需要の弱さのほか、過度な価格競争も物価下落の要因として挙げられる。こうしたなか、政府は「無秩序な競争」への対応を本格的に取り組み始めてはいるが、物価下落局面から抜け出すには時間がかかる。



(資料) 中国国家统计局、Windより作成、直近は25年7月。

以上を踏まえると、足元では中国の物価下落圧力が和らいだが、全体として弱い状況が継続している。物価下落基調の長期化への懸念が強まるなか、今後も内需回復の状況や過度な値下げ競争の抑制をめぐる対応策(反内巻)を注視していきたい。